

## 18年度発掘調査遺跡の紹介

### 延命寺遺跡

(上越市大字下野田字延命寺258 - 1)

延命寺遺跡は高田平野のほぼ中央部に位置し、飯田川左岸の沖積地に立地しています。上越三和道路建設に伴い5月から本格的な発掘調査を行っています。その結果、多くの遺構や遺物が出土しました。

現在確認できている遺構は、掘立柱建物、土坑、溝、畑の畝跡などがあります。土坑のなかには、祭祀具がまとまって出土したもの(1)や多くの土器が出土したもの(2)もあります。

祭祀具が出土した土坑は直径約100cm、人間の形をした人形や馬を模した馬形、先端を尖らせた斎串が出土しており、使用後に一括して捨てたものと考えられます。また、直径約210cmと大型の土坑からは、多くの土師器や須恵器が出土しています。須恵



1 祭祀具が出土した土坑

器のなかには7世紀のものがあることから、この土坑の時期は7世紀と考えられます。これらの土坑の近くでは、土師器がまとまって出土しました(3)。特に甕の多くは口を下にしています。その一方で、椀は口を上にした状態で出土しています。この土師器がまとまって出土した地点は、竈や焼土は確認できなかったものの、土器の出土状況などから竪穴住居である可能性があります。このような遺構の検出状況や遺物の出土状況から延命寺遺跡は集落遺跡と考えられ、遺構の時期は出土する土器の年代から7世紀から8世紀初頭と思われます。

出土した遺物には土器と木製品があります。土器は土師器と須恵器で、7世紀から8世紀初頭のもものが主体となります。土器は遺構からも出土し、特に土坑からは土器が投げ捨てられたような状態で出土する場合があります。木製品では、火切り板なども出土していますが、祭祀具が多い傾向にあります。

今後の調査では、遺構の時期の把握とともに、周辺遺跡との関連に注意しながら、遺構の配置や変遷など集落構造を考えることが課題です。

(山崎忠良)



2 土器の出土状況



3 土器集中地点